白河高校新聞

発行所
白河市南登り町54
福島県立白河高校
出版委員会
☎0248(24)1116

大震災から10年
記憶を繋ぎ悲劇を防げ

今年の3月11日をもって東北地方太平洋沖地震の発生から10年が経つ。同地震により、白河市では山の崩落などにより15人の犠牲者が出た。さらに地震に続く原子力発電所の爆発事故によって、周辺地域が放射性物質に拡散し、風評被害などの二次災害が引き起こされた。また翌月13日に発生した前述の地震の余震とみられる地震で建物の被害をあえて残し、災害遺構（以下遺構）として後世に伝える語り部を行っている福島県立博物館の筑波氏に話を伺った。

葉ノ木平の土砂災害跡に立つ「伝承碑」

災害遺構保存の難しさ

筑波さん曰く、遺構を残すには大きな恐があるという。遺産を管理するために多くのコストがかかるのだ。もとより正しく管理しなければ、残したいものが曖昧になる恐れがあり、安価に済むことはない。行政が管理して簡単に取り壊すことだってあるのだ。筑波さんは2004年に発生した新潟県中越地震の遺構を視察した際、法令上、遺構の保存が不可能だったため、住民代表として、国や県、市を交えて何度も議論を重ね、『存置』することにしました。しかし、東日本大震災の遺構については、新潟のような特殊な条件はない。震災の被害を存置しながらも管理を続けることが難しい。遺構の管理が共同であるとして、何を残すのかがわからなくなる危険があるため、東日本大震災の遺構については補修して当時の状態で残すべきだと考えていたが、人間の考え方によっては、遺構を補修していかに悲惨なことが起こったかは、遺構を補修しないでそのままの状態で残すべきだと考えていた。しかし、人間の所作によって、人間の考え方が変わることもあるのだ。

かなりの方にとってはなじみのない言葉だと思いますが、『語り部』という言葉があります。『語り部』とは、災害を経験した人が、その経験を語り継ぐことで、災害を伝えていくことです。『語り部』は、災害を経験した人が、その経験を語り継ぐことで、災害を伝えていくことです。『語り部』は、災害を経験した人が、その経験を語り継ぐことで、災害を伝えていくことです。

語り継ぐことの重要性

一方で佐藤准教授によって、遺構は朽ちてゆくものの、災害を伝えていくには語り継ぐのが最も効果的であるという。

佐藤准教授は、次のような実験を行った。語り部の話を不快、違う人、音声の五つの場合に対して、『災害時に社会を建立しても、碑の手入れをするなど定期的に碑に人と関わる機会を設けなければ忘れの記憶が消えてしまうことも学んだ。

日本においてもあっという間に感染が拡大し、不安感が広がっていった。また、感染者自身の当時の心情が伝わりやすくなるのである。

佐藤准教授は語り継ぐことの重要性を説いてくれた。

本校でも新型コロナウイルスによる影響が以前から出ていた。また、昨年度は、3月2日に政府により、全国の学校に臨時に休校要請が発表され、学校が全国的に閉じられることとなった。

昨年度は、3月2日に政府により、全国の学校に臨時に休校要請が発表され、学校が全国的に閉じられることとなった。

今年度に入っても感染拡大の勢いは収まらず、4月21日から5月15日までの緊急事態宣言が発令された。

同一月初には、予定されていたマラソン大会や中間考査が中止に、スポーツ大会が延期となった。隣時休校の影響により、学習進度に遅れが出た。また、期末考査が行われ、夏休みも例年より短いものとなった。

2学期には、生徒からの要望を受けて、学校側が中止されたスポーツ大会を開催することができた。2年生の修学旅行は当初予定されていた関西方面から北東北方面へと行き先が変更される形でおこなわれた。クラス対抗の自習用「月刊伝説」も中止となった。

今年の2月、12日には福島県知事の会見で、新型コロナウイルスの感染ステージの指標ステージ3相当まで来ていると発表された。また、同日の夕方に再び緊急事態宣言が発令された。また、1月13日から2月7日までの間を「福島県新型コロナウイルス緊急対策期間」として、政府が首都圏などの感染の拡大を制御するために、1月13日から2月7日までの間を「福島県緊急事態宣言」として発令された。

新型コロナウイルスによる感染拡大で食事が求められた。

緊急事態宣言の内容は、飲食店に対して、酒類の提供を禁止する。また、飲食店の営業時間を20時までとする。また

共通テスト、始まる

～出版委員会による徹底分析～

1月16日、17日に大学入学共通テストの本試験が行われた。全国の受験者数はおよそ53万人、過去最多の886校が受験した。福島県では4455人が受験した。この共通テストでは以前のセンター試験よりも思考力や判断力が求められるようになった。

では、具体的にどのように問題が変化していったのだろうか。私たち出版委員会は、先生方のご意見などを参考にしながら各教科の問題を分析し独自でまとめた。以下がその結果だ。

国語

難度は第1・2つ目の文章が出題された問題形式は概ねセンター試験変わらない形式であった。複数の題材を用いて成立があった。世界大きく動いていくなかで、高校は自分の歴史を振り返り、第2代校長として工藤一勝氏が就任、現在の校歌を作詞した。きっと、白中生徒は、曲線を見立て、校庭南方の風景山を雄山と名付けたのも同氏だ。

時代は戦争へと突入、本校戦争は強まって中生を例外なくその影響を受けた。現役の軍人も指導に当たり、学校教育の内容はたくさん変わった。空襲や爆撃などと戦争のための教育が行われた。

有り答えの書き込み方にも慣れておく必要がある。

英語

全て読解問題となった。読解力が重要となった。また、その題材も多岐にわたるため、情報処理能力もなくてはならない。リスニングにおいては、第3問以降一回しか聞けなくなった。資料などを増えた。

数学

ⅠA、ⅡBともに対話を含む問題が出されることが特筆すべき点である。文章量は多くない。また、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ・Ⅸ・Ⅹ・Ⅺ・Ⅻ・Ⅲ・Ⅳ